



東京都立水元特別支援学校

学校だより

令和6年度1月号

令和7年1月8日発行

3学期がはじまりました。よろしくお願ひいたします。

校長 村上 卓郎



12月の臨時保護者会及び当日資料の御確認をありがとうございました。

この1月には、関係の放課後等デイサービス事業所に同様の説明をさせていただきます。また、学校評価への御回答につきましてありがとうございました。集計結果は、2月の学校運営連絡協議会で御提言をいただき、次年度につなげてまいります。引き続き、御理解・御協力のほどよろしくお願ひいたします。

本号では11月21日に開催した第2回学校運営連絡協議会における御意見などを紹介いたします。

～御意見など～

○授業で取り組んでいたペープサートは、教員とのやり取りができていた。

このような継続が本人たちの成功体験につながるのではないのでしょうか。

○特別支援学校の教員の専門性は「子供を見る目」、「保護者の気持ちを受け止める力」と思います。

○教員が“親の心”を大事にできればと思います。学校が子供にとって希望のある場所であってほしいと思います。

○授業参観でも今回のように指導の意図が分かる説明がなされればと思います。

○児童・生徒の集中を促すことをねらって席の配置をコの字型に配置することを意識できるとよいと思います。

○人権に関する研修会をしっかりと重ねていただきたいと思います。

○個別対応の学習では、AACのツールの活用などで、児童・生徒が、自分が要求する課題を選択肢に取り入れるようにして、授業の終わりまで取り組めるようにしていけるとよいのではないのでしょうか。

○ほめられるポイントを考え、「ほめ方計画」を立てられるとよいと思います。そのことで大事な部分が焦点化されるのではないのでしょうか。など

「教職員に求められる人権感覚」は安全・安心な学校の基盤です。

そのため、私たちは次の視点で日々教育活動を確認しています。

○「児童・生徒の人権を大切にしているか」という視点で

○慣例的にしていた活動や指導方法を不断に見直し

○児童・生徒一人一人を大切にしたい教育活動をすすめます。今後とも、

少しでも気になることがございましたら教えてください。お願ひいたします。

